

## 平成 27 年度 佐久市男女共同参画審議会 議事録（要旨）

日時：平成 27 年 7 月 10 日 10：00～12：10

場所：佐久市役所 8 階会議室

出席者：会長 高橋武彦（佐久市男女共生ネットワーク）

副会長 細萱澄子（パートナーシップ佐久）

委員 浅岡徳光（小林寺住職）

石井美代子（元春日保育園長）

石山道泰（佐久市区長会副会長）

井出久美子（社会福祉士）

井出由美子（元県職員） 井上隆（元長野県男女共同参画コミュニケーター）

小林八代枝（佐久市農業委員会）

小林淑恵（保健師）

坂田孝三（人権擁護委員） 佐々木知子（元パートナーシップ佐久会長）

中村直子（佐久商工会議所女性会）

藤沢京子（パートナーシップ佐久）

増田友厚（佐久市教育委員会）

事務局 人権同和課長 本田喜久利

人権教育男女共生係長 日向宣子

人権教育男女共生係企画員 黒澤貴道

人権教育男女共生係 金箱裕子

1 開 会 細萱副会長

2 会長あいさつ 高橋会長

〔定数報告等 本田課長〕

3 会議事項

(1) 「第 3 次男女共同参画プラン」策定に向けたアンケート調査について

事務局から資料にそって説明

会 長：ただ今説明していただきました。比較分析のため変えられないところもありますが、新たに付け加える点など議論いただきたい。それでは I のあなた自身の質問事項について何かございますか。

委 員：I の 3、あなたの職業の中に 7「無職」とありますが、これは退職者が対象ですか。「無職」の上に「専業主婦、専業主夫」とありますが「専業主婦」も無職なのでは。

委 員：建設業の対象の区分がありません。

事務局：他の総合計画のアンケートとの整合性を図っていきたい。

会 長：では、分類については他の分野との整合性を図って、わかりやすくしてください。

委 員：調査の目的に、条例ができたことがどこにも反映されていない。条例第 11 条 3 に該当してくるのではないのでしょうか。前回と同じことをやっても、裏付けがきちんと条例にあるんだということをどこかに表現していただきたい。それに関連して「条例ができたことをご存知ですか」を新たに入れていただきたい。

会 長：目的なり前段で条例ができたこと、それに基づいて大きなプランの中で条例の精

神を生かしていく等触れていただきたい。また、条例を知っているかについて問いを増やすのか、検討してください。

事務局: 検討します。

委員: 今、子育てと介護の問題があります。子育て中とか、子供がいるとか、いないとか、1ページに同居家族の項目がありますが、それによって、子育てに悩んでいるとか、介護で困っていることの把握をしたら良いと思います。もう一つは、子育て以前の問題で、結婚していない方が多い。結婚しても子供はいらないと考える方もいるので、子育て支援をするにしても、調査がむずかしい。

会長: アンケートに入れてもいいような気もしましたが、結構難しい問題でした。

6ページの9番の問いが、育児・介護について直接的に子どもがあるなしに関わらず答える形式になっています。その場合に「子どもを育てている」とか「介護をしている」とあれば、9番の問いが分類しやすいだろうということですが、6の分類を多くしても正直どうなのかと思います。子育てと介護については、市の他のアンケートや実態調査でわかっていますか。

事務局: 今度の「まち・ひと・しごと」で、アンケートのところではやはり一番重要なのは人口10万人都市の維持、または減少を最小限にという中で、子育て支援があるわけです。子育てに関しての項目は当然あるようですが、中身についてはまだよく確認はしておりません。

会長: 介護、子育ては、かなり重要な政策のポイントのひとつです。たぶんいろいろなところで取り上げられていると思いますので、別のところで資料や実態調査が行われているのであればそれを使えばいいと思います。ここで調査した方がいいのかどうかは行政の中で判断していただきたい。

事務局: このアンケートをとった現状を、どのように施策に反映させていくかということは、市全体で関わっていきますので、この件は事務局で調整してまいります。

委員: 県のパンフに、子どもの出生年別第1子出産前後の就業経歴等載っています。佐久市の中にも、具体的に子育て中の正直な市民の声も載っていますが、どこから出てきたのか疑問に思っています。

会長: アンケートの一番後ろの「自由記載欄」に、前回本人が自分のことを含めた内容で書いていただいているということです。市の方のまとめもそのような部分を反映している可能性があると思います。

事務局: 結局アンケートは、国・県・市の数字があって「国・県は何%、佐久市は低い」等の実態から市はどのように展開していったら良いのか等の資料にするわけですから、比較検討できる項目について、もう少し調整させていただきたい。

委員: 子供の世代を知りたい場合は、6の3に二世帯世帯(親と子)のところ、3歳未満、未就学児、小、中、…として○をしてもらうのはどうか。また、同居家族の構成も聞いていますが、比較分類ということは別としても、今現在介護をしている項目を

入れるか、自由記載のところに書いていただくようにしたらよいと思います。

会 長:6番に、もう少し付け加えればわかってくることがあるという意見です。そこだけ細かくしても分析していく時にあまりそれが役に立たないのではないかとも思いますが、分析の業者がデザインする時にどのように考えてやっていくのか、事務局で検討していただきたい。

事務局:現状をどのように把握して、記載していただいたものが次の項目にどのように関係していくか。また、分析するうえでどこまで必要となるか等考えていきたい。

委 員:男女1,000人を無作為に抽出するということですが、ほぼ均等という解釈でよいですか。

事務局:男女別、年代別に男女が半々になるように抽出していきます。

委 員:結果もそういうことですね。だったら問題ないですね。

会 長:結果だけ申し上げますと、前回の回答者数は約4割で、女性が218人、男性165人、合わせて383人。数に多少の問題はありますが、きちんと反映されているのではないのでしょうか。

事務局:市民の考えを把握することはアンケート以外ではなかなかできません。回答率を上げることと、あまり複雑なアンケート内容にすると無回答が増える問題が出てきてしまうので、わかりやすい記述で、わかりやすい回答の工夫をしていきたい。

会 長:それでは、2ページのⅡの用語や制度などについていかがですか。

委 員:ジェンダーとかワーク・ライフ・バランスとわざわざ横文字で載っていますが、これは必要ですか。私にはわかりづらい。

委 員:私も以前は知りませんでしたが、パートナーシップ佐久に携わり全国女性会議などいろいろな会議に出席すると必ず出てくる言葉です。用紙に解説してありますが、男女共同参画を知っていただいたり、進めていくためには大切な言葉です。

委 員:市民に知らしめるため、1,000人ばかりに出す必要はあるのでしょうか。

委 員:市民でご存知の方は少ないと思います。昨年4月に条例ができましたが他市は随分前から進んでいて、佐久市は一番遅い。言葉を市民に知っていただくことがまず一番大事なことだと思います。

委 員:やっていただいた方がよいのですね。わかりました。

委 員:私も同意見です。特にワーク・ライフ・バランスは職場で知らない男性が多ければ認知されず、調査で認知度を聞くことによって、社会で周囲に伝え、いかにうまく制度を使って家庭を守っていくかが大切だと思います。パンフレットは読まない人が多いので、少しずつでも知ってもらい社会が変わっていくと良い。

会 長:用語と制度の他、条例についてはここに付け加えるか付け加えないかは検討してください。次の2~3ページのⅢの間2、Ⅳの間3、Ⅴの間4で何かありますか。

委 員:Ⅱに戻りますが、今、様々なハラスメントが問題になっています。男女共同参画に関係してくる言葉は、セクハラとかパワハラでしょうか。DVについては、アンケー

トの後ろの方に出てきますので、他のワードを知っていますかと質問しても良いのではないのでしょうか。聞く必要もないくらいの認知度であればもちろん入れる必要はないと思いますが、他の委員さんのご意見を伺いたい。

会 長:言葉として、「セクハラ」「パワハラ」を聞いてみようという意見ですが、実態については、6ページの間10にあります。男女共同参画の啓発の視点からも、3つの言葉を追加するかどうかですが。

委 員:問4の(1)の言葉が気になります。地域の会議や行事で女性が裏方(台所)を引き受けるのが当たり前だ、とありますが、私たちの区では男性だってどんどん台所へ行って、お湯だって沸かしますよ。「当たり前だ」という設問の言葉と、(2)自治会(区)やPTAなどの団体の会長は男性になった方が良い、と決めつけられています。この設問は少し言葉を変えていただきたい。

副会長:質問の後ろに、「～と思いますか。」と加えたらいかがか

委 員:設問のニュアンスが変わると比較ができなくなるのでは。同じ設問の方が「こう変わった」と言えるし、効果はあったと言える。今回はどのように分析して、アウトプットするかということ考えた設問にしないといけないと思う。

例えば、Iの属性は、細かくすればそれはそれでいいのですが、最終的に何も活かせなければただ無駄になるし、設問がどんどん増えて膨らんだアンケートは、それなりのものになっていないと、それもまた問題。

会 長:前回の設問(1)の集計は、約60%の人はそうは思っていないということで、そのように断定する状況は段々薄れつつあるという状況ですが、質問事項を変えたいということですね。

委 員:「～と思いますか。」を加えて、柔らかくしていただきたい。

会 長:答えの方も「そう思う」「そう思わない」となっているので、そんなに質問の答えは変わらないと思う。少し柔らかく「～と思いますか」と付けることにしましょう。また、先ほど「セクハラ」「パワハラ」の言葉の件は、このまま残して次にいきます。4～5ページで何かありますか。男女の役割についてと政策についてです。

委 員:問5の数字が、「現在の」という曖昧な表現です。また、女性委員の割合はH26の数字です。27年度の調査なので最新の数字で。

事務局:秋の時点で、H27. 4. 1現在に変えた数字にします。

会 長:5、6ページはどうでしょうか。育児、介護についてはよろしいですか。

委 員:問14に、今後は独居の方が増えるので自分で介護保険サービスを受ける、という項目を増やしてほしい。または5のその他の欄に書いてもらってもいいのかなとも思うが。あと、「ハラスメント」ですが、「パワハラ」「マタハラ」などを入れるのであれば、3ページVの地域でのしきたりや自治会(区)活動のところに入れていただきたい。地域で男女共同参画を進めていくにはあった方がいいと思う。

会 長:問14は、独居しながら介護サービスを受ける、そんな表現でしょうか。最初から一

人、介護状態になってからも一人という方がいますから。

委員:「ハラスメント」は、前回で入れてほしかったくらいです。ここで入れなければまた5年後になってしまうため今回項目に入れてほしい。

委員:先ほどの問14ですが、ここは本人がどのような状況を望みますかということで、「もらう」ではなく「してもらいたい」というのが本人の希望なのではないか。

事務局:問の表現に該当しない人が増えていくだろうから、書きやすいように増やしておくということですよ。

委員:項目を増やすことにプラスして、先ほどの表現を変えた方が良いと思います。

会長:問14の「望みますか」という言葉は、そう望んでいる人が多いから施策として考える方向性の問題と、独居になったら仕方がないという人と混同したものになりそうだが、回答から脱落してしまう方もいるので、表現を変えてもいいかとも思う。

次にハラスメント系の言葉を、用語として知っているか知らないかで問うか、現実的にそういうことを受けているのかいないのか両方にするか。

また、パワハラとかマタハラという言葉は、男女共同参画社会で知っているか知らないかという意味で取り上げる言葉ではないのではないかと思います。載せるとすれば問10を(1)(2)に分けたらどうか。

委員:現在パワハラ・マタハラがあるのかどうかを問いに入れてもらいたい。

委員:パワハラ、セクハラは主に職場で起きていることが多いのに、職場という言葉が入っていない。「パワハラ」という言葉は知っていますか、という質問の後に「パワハラを受けたことがありますか」という質問があっても良いと思う。佐久市にこういう職場もあるのかなという啓発にもなるのでは。

会長:Ⅷを「配偶者からの暴力等」にして、そのあとの問9, 10, 11に続けていく。個々の企業に指導するかしらないのかはわからないが、実態だけでも取ってみるという問いになるのかと思います。企業人の立場としての委員の意見は。

委員:今、パワハラ、マタハラ、逆ハラとたくさんあります。男性が女性に、女性が男性にもあるし、部下が上司にもあったり、いろいろな形で生まれてきています。男が男にもあるし、男女共同参画という流れの中で、マタハラ以外のハラスメントについては、全てにおいて言えることなので、この辺をどのように考えていくのか。

副会長:この女性に対してだけというのが少し引かかります。子どもや男性に対してとかいろいろあると思うのでどのように考えていけばいいのでしょうか。

会長:いろいろな暴力、態度、言葉があるが、それを女性に限らずにしてしまうと焦点がぼやけ、問いもぼやけ、答えもいい加減になってしまう気がします。この点について、事務局では暴力によって人権が侵害されるような事例がないわけではないと思うが、専門的な内容なのでいかがなものでしょうか。

事務局:セクハラ、パワハラについて問いを設けるのではなく、問10で初めてセクハラがでくるので、DVと同じように問10に説明書きを入れるというのはどうでしょうか。

会 長: 男女差別・暴力も男女共同参画の一部なので、問いになるなら入れていただきたい。現代の暴力は打たれる方も弱いから、うっかりすれば自殺という現象を起こしてしまう。小さいハラスメントも気にしなければならない時代になった。

事務局: 問9の後にハラスメントに関しての用語の説明を入れ、地域や職場で受けたことがありますかという新たな問いをつくることを検討してみます。

委 員: 先ほどの問14ですが、介護を受けることになった場合の設問で、現に受けている人はその他に書くのか。

会 長: この問い一つでは現実と希望の両方を答えることは難しいと思いますが、望まなければいけれど介護を受けながら一人でやっているよという人は混乱しますか。

事務局: 介護を受ける状態になった場合、どのように望みますかという問いに対して、現実的な人もいることは想定できますが、家族がいないという項目があれば、後はこのままでよいのではないのでしょうか。ここは、どのように望むかという方に主体をおいて問うことをご理解をいただきたいと思います。

会 長: どのように望むかという方に主体をおいた問いということで理解いただきたい。

委 員: 2点質問します。一つは、問7、8が「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」とありますが、「地域・個人の生活」という括りの意味がわかりません。「地域」だけならわかります。「家庭生活・個人の生活」にするべきではないでしょうか。

二つ目は、40%の回答率はどうしてなのか。形式の問題なのか。レイアウトをもっと工夫すれば上がるのか。40%を50%に上げるにはどうしたらいいのか考えた方がよい。

会 長: 今の質問でふと思い出しましたが、ワーク・ライフ・バランスという中での分け方は、「仕事」「家庭」「地域」「個人の趣味」だったと思います。

事務局: 県の資料によると、「仕事」「家庭生活」「地域活動」と「個人の自己啓発など」となっています。アンケートもこのように変えたいと思います。

回答率については、人権同和課が今年行うアンケートは、男女共同参画の他に人権もあります。こちら5年前に行い、同じような回答率でした。回収率を上げようと現在予定をしているのは、締め切り前にお礼の文面とまだの方にはご協力をお願いする文面の両方記載したハガキを出したいと考えています。他に良い案があったら教えていただきたい。目標は50%です。

委 員: インターネットはいかがですか。若い方は特にそれで回答した方が早い。今はほとんどそういう方向になってきています。紙もいいですけど、40代、50代の方達はインターネットのウェブ上でアンケート回答した方が、早くて回収率も高いと言われているのでご検討ください。

事務局: アンケートは業者委託なので、委託する際に業者へ話してみたいと思います。

会 長: こういうアンケートを実施していますと、ネットで検索できるようにしますか。

事務局: アンケートをお願いすることは、ホームページには載せたいとは思いますが。

会 長：活発なご意見ありがとうございました。次第に基づくアンケート調査についてはこれで終了します。

事務局：本日いただいたご意見をアンケートの内容に反映できるよう検討し、調査を行ってまいりたいと思います。

#### 4 その他

- ・事務局から男女共同参画推進事業者表彰の説明
- ・次回審議会開催予定について 11月下旬頃を予定

会 長：今日議論したアンケートの内容が決まって、ほぼこれで行くとなったとき審議会は開催されないのですね。

事務局：はい。

会 長：市では、このような内容でアンケートを発送しますという結果だけ審議委員に郵送していただけますか。

事務局：完成品をそれぞれの委員さんに送らせていただきたいと思います。